

近畿支部

支部長 堀 泰祐

<第18回日本死の臨床研究会近畿支部大会報告>

下記のプログラムに従って、開催されました。参加者は150名で、活発な討議が行われました。「死」は日本文化の中では特別なことではなく、自然に受け入れられていました。「文化としての死」を大切にしてく視点が見られています。

テーマ：「“死”って怖いですか」

大会長：月山 淑（和歌山県立医科大学附属病院 腫瘍センター緩和ケア部門）

塩路 有理（同看護部）

会期：2012年2月19日（日）10:00～16:30

会場：和歌山ビッグ愛 大ホール

参加費：支部会員1,000円、非会員2,000円

I部：座長 伊藤浩二（白浜はまゆう病院 副院長）

【基調講演】「“死”って怖いですか？」

カール・ベッカー（京都大学こころの未来研究センター教授兼
京都大学大学院人間環境学研究所教授）

II部：座長 月山 淑（和歌山県立医科大学附属病院腫瘍センター緩和ケア部門 部門長・准教授）

塩路有理（同緩和ケア病棟師長）

【シンポジウム】

「文化としての死、科学としての死」

1) 熊野より日本再生への祈り

九鬼家隆（熊野本宮大社宮司）

2) 「葬儀形態の変遷」～ご遺族へのケア～

高田泰文（セレモ平安総支配人）

3) 看護教育において、死をどのように教育しているのか

鈴木志津枝（神戸市看護大学療養生活看護学領域教授）

4) 医学における人の“死”とは？－死体を科学する法医学の立場から－

近藤稔和（和歌山県立医科大学法医学講座教授）

<教育セミナー>

今回は参加者の便宜を考え、同じ内容で2回開催されました。

エンゼルメイクを考える－穏やかで美しい看取りのために－

日時：2012年2月4日（土）参加者：30名

18日（土）参加者：59名

セミナーには2日目定員をオーバーする申し込みがあり、エンゼルケアに対する関心の高さが伺えました。

<第19回日本死の臨床研究会近畿支部大会予告>

会期：2013年2月17日（日）

会場：新梅田研修センター

大会長：合屋 将（大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター緩和ケア科）

橋口由起子（同看護師長）

<教育セミナー>支部大会前日の2月16日で現在、計画中です。